

# 学生ストリートダンサーの活動支援のための

## ビジネスモデルの検討

スポーツマネジメントゼミナール 1315059 棟方 俊樹

### 1. 研究動機

現在ストリートダンサーの総人口は600万人を超え、中学校指導要領で創作ダンスが義務化されるなど、近年人気の習い事となっているストリートダンス界に着目した際、ストリートダンスをビジネスとして捉え、その結果、本研究に着手することにより、今後、自分でビジネスとしてストリートダンスを展開して行くときに、今研究が活かされると考え、本研究に着手することに至った。

### 2. 研究方法

研究方法としては、大学生ストリートダンサーを対象としたアンケート調査がメインであった。Google フォームを利用して、回答を求めた。アンケート調査では、仮説を7つ立て、 $\chi^2$ 検定を用いて仮説を検証していった。その他には、ストリートダンス市場の調査、現状の把握をするために文献研究を行なった。

### 3. 主な結果と考察

本研究では先行研究として、現状のストリートダンサーの練習環境の把握、ストリートダンス市場の現状の把握を行なった。ストリートダンサーの人口、ストリートダンスの市場の変化、ストリートダンサーの属性、ストリートダンサーの主な活動場所に関する論文から情報を集めた結果、それぞれで以下の様な結果が得られた。

ストリートダンサーの総人口は600万人を超えている、ストリートダンスの市場は近年様々なアプローチで発展している、ストリートダンサーには人と直接会って話をするのを好む傾向がある、ストリートダンサーの主な活動場所としては公有地、駅、私有地、大学といったところでそれぞれ行なっている。

アンケート調査では、更なるストリートダンス市場の現状の把握をする為、仮説を7つあげて、調査を行なった。その結果、立証されたとと言える仮説は7つのうち2つのみであった。その理由として研究対象が155名と少なかったことが考えられるものの、7つの仮説の検証結果以外にもストリートダンサーの特性を知ることができ、本研究の目的でもあった現状のストリートダンサーの市場の現状、練習環境についての把握をすることができた。

またアンケート調査の中で、筆者が思い描いているストリートダンサーのための環境はどれくらいニーズがあるのかを知るために、「周辺に個人練習ができて、ダンサーが集えるような環境があれば利用したいと思うか」という質問を組み込んだ結果、表1のように利用したいと答える人が94.2%となった。これは、今後本論文を元にストリートダンスをビジネスとして始められるための重要な結果であることが示唆された。

表1□個人練習ができてダンサーが集える環境ができた時、利用したいと思うか

	大変そう思う	そう思う	特には思わない	そう思わない	合計	
人数	95	51	8	1	155	(人)
割合	61.3	32.9	5.2	0.6		(%)

#### 4. 結論

本研究を通して、最大の目的でもある「ストリートダンサー専用の練習空間を提供する」に対して、そのニーズが高いということを知ることができた。一方で、アンケート調査での結果であるため、確実な結果とは言えないものが含まれている可能性もある。今後の課題としては、本研究の結果をどのように「ストリートダンサー専用の練習空間の提供」に対して、繋げていくかということが挙げられる。そして、今後上記のような環境を作り、ビジネスとして経営していくとなった際、経費の計算、設置場所の検討、マーケティング戦略など実際に動き始めた時のことを考えると、課題は山積みである。本研究を活かして、更に研究の規模を大きく、深くし、今後ビジネスモデルとして確立させるために更なる研究に着手する必要がある。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

今研究に着手する以前と研究後で、得られたものはとても多かったと感じる。自分のやりたいことに対しての研究内容であったので、スムーズに進めることができ、とても有意義な時間となった。1つ反省としては、好きな題材であり、今後の自分の目標の為にももっとたくさん動けたはずではあったのにも関わらず、部活動や仕事で自分の本当にやりたいことに対しての時間を割くことができず、思い描いていた研究内容には大抵届かないような論文になったしまった事だ。やりたい事を仕事にする事の難しさ、社会の面白さというものが本研究を通して学ぶことができた。今後の自分の仕事に繋げることができた研究であったため、これからも今回の論文で得たことを基盤に、様々なビジネスに着手していこうと思う。